



ご挨拶

札幌市長

秋元克広

札幌・瀋陽友好都市提携35周年を迎えて

1980年11月18日、札幌市にとって3番目の姉妹・友好都市として、中国の瀋陽市と友好都市提携を結んでから、35年の月日が経ちました。

この間、両市は、スポーツ、文化、経済などの分野での交流に加え、両市の市民生活向上を目指し水道や建設技術等の専門的な技術交流を行うなど、実に多彩で特徴的な交流を積み重ねて参りました。

友好都市提携35周年という節目を迎えた2015年には、まず10月に黄凱瀋陽市人民代表大会常務委員会副主任をはじめとする瀋陽市訪問団の皆様を札幌にお迎えし、11月には60名を超える札幌市訪問団が瀋陽を訪問し、熱い歓迎をいただきました。

札幌で行った35周年記念式典では、瀋陽市都市建設管理局と札幌市建設局との道路や公園建設の技術協力に関する協定や、瀋陽市渾南区第二中学校と札幌開成中等教育学校との友好校提携の調印式を行い、これまで積み重ねて来た技術交流のさらなる発展と、両市の将来を担う若者の交流促進を誓い合いました。瀋陽市訪問の際には、市民訪問団とともに、瀋陽の重要な教育機関である瀋陽師範大学を訪れ、現地学生との交流を通して、青少年交流の意義を再確認したところであります。

また、札幌と瀋陽にて行ったビジネス交流会では、環境関連の企業を中心とする経済訪問団が実りある商談を行い、両市の経済面における互惠関係の一層の促進を実現できたかと存じます。

今回の記念事業を契機に、両市の友好の絆がさらに深まるとともに、今後、技術面や教育面、経済面をはじめとする様々な分野で両市の発展がもたらされることを期待しております。

本冊子の編纂にあたり、瀋陽市並びに関係者の皆さまに多大なるご協力をいただきました。誌面をお借りして心より御礼申し上げます。

最後に35周年を記念して発刊するこの冊子が、両市の交流促進と、これからの両市の交流を担う市民の皆さまの瀋陽市に関心を抱くきっかけになりましたら幸甚に存じます。



ご挨拶

瀋陽市長

潘利国

瀋陽・札幌友好都市提携35周年記念誌の発行にあたり、瀋陽市及び820万人の瀋陽市民を代表し、両市の35年に亘る交流に対して心からお祝いを申し上げますと共に、長年に亘り両市の友好交流にご尽力いただいた方々に対し厚くお礼を申し上げ、敬意をここに表します。

札幌は瀋陽にとって初めての友好都市であり、以来35年の間、瀋陽は多くの国際都市と友好都市関係を締結しておりますが、札幌と瀋陽は継続的に緊密に連携を続けてきました。両市、議会及び民間各界における相互努力のもと、職員派遣、青少年交流、都市建設、環境保護など様々な分野での交流を発展させ、多大な成果を収めてまいりました。

ここ数年、瀋陽は急速に発展し、地下鉄、路面電車をはじめとするインフラの整備が進んでおります。2013年には、中国国内最大のスポーツ大会である「第12回中国全国運動会」が開催され、2015年には中央政府から「国家全面創新改革試験区」に認定され72時間ノービザで入国できる都市になるなど、瀋陽は、各分野の発展の機会に恵まれ、努力をしているところです。

2015年の瀋陽・札幌友好都市提携35周年に際しては、両市の青少年スポーツ交流団の相互派遣を実施し、ハーフマラソン及び卓球分野での言葉を超える交流が実現しました。また、両市は相互訪問の機会に、環境ビジネス交流会を開催するほか、書道家及び画家の文化交流も行いました。さらに都市建設分野及び教育分野の友好協議書にも調印するなど、多くの有意義な交流が行われました。

これから、瀋陽市が第十三次五ヵ年計画を推進し、スマートシティの建設を目指すことをきっかけに、新たな分野での交流も多く生まれることでしょう。また、現在、高齢者福祉など新しい分野における交流の可能性や、チャーター便や直行便が再び就航することも期待しております。両市の市民交流のために、また、両市の発展のために、札幌の皆様と手を繋いで発展させていきたいと思っております。

最後に、札幌市のますますのご発展と、札幌市民の皆様のご健康、ご多幸を祈念いたします。



祝 辞

中華人民共和国駐札幌総領事館

総領事 孫 振 勇

2015年、瀋陽市と札幌市は友好都市提携35周年を迎えました。両市は、秋元市長と黄凱人民代表大会副主任の相互訪問をはじめ、多くの記念事業を展開され、友好関係がより緊密になりました。

35年前、瀋陽市と札幌市、この二つのほぼ同じ緯度の都市が友好都市関係を結び、緊密に連携し始めました。現在、瀋陽市は世界13の国の18の都市と友好都市関係を結んでおりますが、札幌市はその中で最初に友好都市関係を結んだ街です。過去を振り返れば、両市の間では政治、経済貿易、人文などの分野で交流事業が展開され、目覚ましい成果を遂げてきております。また、両市は中日友好を促進し、両国人民の相互理解と友好を増進するために積極的に努力し、貢献してまいりました。今回、35周年という重要な節目に、両市による相互訪問と記念事業を通して、多くの成果を取めたことと思います。札幌市主催の札幌・瀋陽友好都市提携35周年記念式典及び祝賀会に参加させていただいた私は、両市の連携が一層進んだことを、大変嬉しく思ったところです。

中日関係の改善が見られる中、瀋陽市と札幌市の交流は両市、両国の関係をも促進させる、非常に有意義なことだと考えております。瀋陽市と札幌市の両市が、友好の信念を固め、積極的に行動し、絶えず中日友好の種を蒔くことで、木々生い茂る豊かな森となり、両市及び両国市民の友好関係が子々孫々続いていくことを期待しております。

我々中国駐札幌総領事館の職員一同、この記念すべき35周年の機会に、瀋陽市と札幌市のますますのご発展とさらなる交流を祈念しております。



祝 辞

在瀋陽日本国総領事館

総領事 大澤 勉

(友好都市提携35周年時総領事)

日中両国の北の大都市である札幌市と瀋陽市が友好都市提携35周年を迎えられましたことに対し、心よりお慶び申し上げます。

南北に長く、四季のはっきりした日本、広い国土と多様な地域性がある中国。この両国において、両市は共に冬の厳しい寒さが特徴です。札幌は1972年の冬季オリンピックや毎年開催される雪まつりなどで知られている、日本において北国を代表する大都会です。一方、瀋陽は中国東北地域の主要都市であり、冬の寒さは北海道を凌駕するとも言われています。赴任した当初は、マイナス20℃という気温に驚きましたが、2年半が経過し、3度目の冬を経験するようになって、今や時折見られる白い雪景色を楽しむ余裕も出てきました。

瀋陽で3度目の冬に改めて思うことは、厳しい冬があることで、春がより一層大切に感じられるということです。暖かな季節は人々に快適さをもたらしますが、厳しい季節がないと、なかなか気が付かないこともあります。寒い冬の季節も全てが凍結して休眠に入っているわけではなく、雪の下では春に向けて準備している動植物がいますし、春には雪が溶け、水となって大地を潤します。我々の目には見えなくとも、一つ一つの小さな活動の積み重ねが、来たる将来への備えとなっています。

近年の日中両国の関係は難しい状況に直面し、「冬の時期」にあったと言えると思います。その間も、札幌市と瀋陽市の間では、市役所・市政府間の交流、議会交流、経済交流、文化交流、青少年交流など、一つ一つの規模は小さくても、多様な交流が脈々と続けられ、日中両国の関係を地方レベルでしっかりと支えてきていただいたと認識しております。

瀋陽市を含む、中国東北地域は歴史的に日本との関係が深く、市民の日本文化への関心が高い上、多くの日本語のできる方が社会の各分野で活躍していることから、日本の多くの自治体、企業、学校、個人との間で、多様な交流が行われています。また、日本は経済成長の鈍化や少子高齢化などを踏まえた大きな転換期にありますが、瀋陽においても旧来の重工業主体の産業構造や永く続いた一人っ子政策による人口構成などから、日本同様の構造転換が必要ではないかとの議論が行われています。こうした共通の課題に取り組むためにも、札幌市と瀋陽市の地方交流や協力が、今後益々重要になっていくと考えられます。

一昨年为首脳会談以来、日中両国の関係はよい方向に向かって発展を続けています。札幌市と瀋陽市はこれまで35年間の交流を続け、両国関係を基礎から支える多くの成果をあげてられました。両市の交流が今後も末永く続くことを期待すると共に、関係者の皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

札幌姉妹都市協会会長

福 迫 尚 一 郎

札幌市と瀋陽市が文化、教育、環境など様々な面で学びあい、交流を続けながら、35周年の節目の年を迎えられたことを大変嬉しく思います。近年、発展目覚ましい中国との経済分野での交流に大きな注目が集まっていますが、市民同士の交流は、その土台となる相互理解と信頼を築くものと考えております。

11月10日から7日間の日程で、友好都市提携35周年記念市民訪問団の団長として、札幌市民の皆さんと共に瀋陽市および北京市を訪問しました。

記念式典、祝賀会では、同年10月末に札幌にお迎えした瀋陽市の方々と再会できました。

また、瀋陽師範大学で行われた交流会では、日本語を学ぶ学生たちと親しく意見を交わす機会を得ました。日本の言語や文化に興味を持ち、将来は両国、両都市を結ぶ仕事につきたいという夢を語る姿は、みな前向きで若々しく、交流の未来を支える世代がいることを頼もしく思いました。

今回の訪問を通じて、私たち札幌市民は、長い歴史や文化の重みと発展を進める新たな活力の両方に満ちた瀋陽の魅力に、直接触れることができました。また、日本との深い繋がりを実感し、平和への思いを新たに作る旅ともなりました。

当協会はこれからも、札幌市民と瀋陽市民の市民同士の交流をつなぐ架け橋となれるよう努めて参りますとともに、両都市の交流が今後さらに活発化されることを祈念いたします。